

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

生涯学習とっとり
vol.
183
2019.7
鳥取県生涯学習情報誌



あぐりジェンヌ主催でマルシェを開催

特集

農業で鳥取を盛り上げる！

とっとり農業女子ネットワーク「キラリ☆鳥取あぐりジェンヌ」

- 04 私たちの活動をご紹介します！
福万来ヒメボタルの保護活動(日南町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(7・8月)
- 23 こんにちは、鳥取県立博物館です！
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなんしとるで～



おしゃれで魅力的なポップづくりの勉強会

農業で鳥取を盛り上げる!

とっとり農業女子ネットワーク 「キラリ☆鳥取あぐりジェンヌ」

県内の女性農業者が互いに切磋琢磨しながら、交流し連携することで鳥取県の農業を盛り上げる、とっとり農業女子ネットワーク「キラリ☆鳥取あぐりジェンヌ」。
代表の杉川一^{すきかわひとみ}二美さんに活動についてのお話を伺いました。

主体的に取り組めば、農業はもっとおもしろい!

結婚を機に、北栄町大谷地区で初めて西瓜を栽培することになった杉川さん。夫がJA 鳥取中央大栄西瓜組合協議会の会長になったときに、「自分も何か力になりたい、自分でも何かできるのではないかと」感じました。しかし、農業についての知識が全くなかった杉川さん。「男性は、外にでて技術を学ぶ機会に恵まれているのに、女性はそのような機会がない。言われたことだけをやる農業が一番楽しくないと感じて。自分の頭で考えて主体的に取り組めば、農業がもっとおもしろくなるはず!そしてそのことが、大栄西瓜ブランドの更なる発展につながるのでは」と考えました。そこで、大谷地区で同じように結婚して初めて西瓜農家になった女性たちに声をかけ、平成24年に「スマイルサークル」という若手女性農業者のサークルを立ち上げました。

スマイルサークルでは、農業改良普及員を講師に迎え、月に1回地区の公民館で西瓜栽培についての勉強会を開くほか、メンバーの畑を見て回り、いいところや改善したほうがいい点を指摘しあいました。

さらに、オシャレで快適な農作業着のファッションショーを企画し、北栄アグリフォーラムで披露。そのほか、他県にも視察に行くなど、西瓜栽培についての技術を磨いていきました。



農業改良普及員を講師に勉強会を開催



農作業着のファッションショー
「なんちゅうええがな collection」を企画

女性農業者のネットワークが誕生

スマイルサークルの活動が軌道に乗りだした頃、鳥取市福部町では「らっきょう女子会」、八頭郡八頭町では「女子会@やず」、大山町香取では「カトrich」、倉吉地区（倉吉市・三朝町・湯梨浜町）では「A-Nyova」など、女性農業者のグループが次々と立ち上がりました。しかし、それぞれが個々に活動をしていたため、「一度みんなで集まってみたらどうだろうか。さらに、グループに属さない人も気軽に交流し情報交換ができる場があれば」と杉川さんは考えました。そこで、スマイルサークルの代表を交代し、平成30年1月に、県内の女性農業者をつなげ、ともに学びあう場をつくろうと「とっとり農業女子ネットワーク〜キラリ☆鳥取あぐりジェンヌ〜（以下、「あぐりジェンヌ」という）」を立ち上げました。

「あぐりジェンヌ」のメンバーは、現在52名。住む場所も年齢も異なり、作る農作物もさまざまです。これまでの活動をとおして、「女性が元気なところは、そのまちなも活気がでてくる」と実感した杉川さん。「自分の今の世界から一步前に踏み出して、互いに切磋琢磨しながら向上していけるような組織にしたい」と笑顔で話します。



大栄西瓜の選果場（北栄町）を視察

マルシェでキラリとひかる感性を發揮

メンバーの中から、「鳥取市にある『地場産プラザわったいな』でマルシェ*を開きたい!」という声が多くあがったため、実現に向けてオシャレで魅力的なポップづくりの勉強会を開いたり、オリジナルのロゴマークやポロシャツを作製したりしながら準備を重ね、平成30年11月に、「あぐりジェンヌ」主催で初めてのマルシェを開きました。メンバーが自分の作った農産物を対面販売したほか、野菜ソムリエによるセミナーも実施。さらに、豚汁の無料配布や子ども向けのコーナー等も設け、たくさんの人に喜んでもらえるように工夫しました。マルシェでは、おしゃれな木箱を使い、布を敷くなどディスプレイにはメンバーがキラリと光る感性を發揮。多品目の農産物が並び、お客さんもたくさん来場し大成功でした。

「あぐりジェンヌ」では、県内各地の先進的な取組の視察もしています。これまでに、福部町のらっきょう農家や北栄町にある大栄西瓜の選果場、琴浦町にある大山乳業農業協同組合、とっとり花回廊に花を卸している花き農家等も視察し、視察先の農家とのつながりも深まっています。

※マルシェ：マルシェ（marché）は、フランス語で「市場」という意味の言葉



先進地視察：らっきょう農家（鳥取市福部町）



「地場産プラザわったいな」でのマルシェ



カゴや木箱を利用し、工夫されたディスプレイ

また、メンバーの一人が、携帯用の水洗トイレにおしゃれな簡易テントを組み合わせたトイレを考案し、勉強会でみんなに紹介したこともあります。農作業中は、畑にトイレがなくて困っていたため、「これはすぐにでも試したい！思いもつかなかった！」とみんなが大絶賛。勉強会はアイデアを教え合う場にもなっています。



簡易テントを組み合わせたトイレ

地域リーダーとして力をつけることも目指す

「あぐりジェンヌ」の活動は、メンバーの中で『これが見たい！』という人が、他のメンバーに呼びかけ企画が実現していきます。「主体的に参加したほうがずっと楽しいし、企画が実現したら、自分の力にもなることをメンバー自身が実感できるようにしたい」と杉川さん。「最初は受け身だったメンバーが、主体的に活動するようになってきました。一人ひとりの『これが見たい！』が叶う場にしたいですね」と続けます。

中部だけでなく、東部・西部も含め、県全体の農業を盛り上げていきたいと、今年度は、東中西部に分かれて企画を進めています。東部は、それぞれの自営する農作物の紹介や販売促進のために、ホームページを作成する研修を予定しています。中部は、栃木県にある阿部梨園の方を講師に経営改善の講演会を開催する予定で、メンバーだけでなく、広くいろいろな方にも来ていただけるよう計画中です。

西部は、今年10月19日、20日の両日、米子コンベンションセンターをメイン会場に開催される「農と食のフェスタ in せいぶ」にマルシェを出店する予定です。このマルシェは、西部が企画してあぐりジェンヌのメンバー全員が参加します。

昨年、東部の役員をしているメンバーの濱田香^{はま だかおり}さんが、鳥取市の農業委員会の会長に就任しました。「県内で、初の女性会長です。濱田さんは、あぐりジェンヌの活動があったからこそ声がかかり、会長を引き受けたと聞きました。うれしかったですね」と杉川さん。

つながってネットワークをつくり、相互に交流しながらキラリと輝く活動を続ける「あぐりジェンヌ」。みんなで集まって楽しく活動するだけでなく、ともに学び合いながら、地域リーダーとしての力をつけることも目指しています。



代表の杉川二美さん

農業はワクワクの連続

人は食べないと生きてはいけない。「命のもとをつかさどるのは農家だけえな」と教えてくれたのは夫。私たちは農業に誇りを持っているんですよ。キュウリ1本にしたって植えないと実がならないし、植えたって実がならないときもある。農業って、とても大事なことなのに、何かおざなりにされているところがあって。結婚前は保育士をしていたこともあり、もともと食への関心も高かったのですが、それ以上に、農業そのものに「おもしろさ」を感じています。

西瓜の接ぎ木作業をしたときに、台木はかんぴょう^{だいぎ}ということを知りましたね。かんぴょうの台木にちっちゃい西瓜の芽をつぐわけです。台木は根を切っているのに、土に挿して何日かすると、ちゃんと根っこが生えて苗になる。そんなの見たこともなかったですね。それから交配をしたときに、自分でもうまくいったと思うものがどんどん大きくなっていくわけですよ。そういう楽しさがありました。農業にはまったわけですよ。

2人の娘も小さいときから、農作業を手伝っていました。西瓜の苗に三角のキャップをかぶせる作業をするのに、「1枚2円！」と言うと、お小遣いを稼ぎたくて、姉妹で競争して楽しんでいましたね。稲刈りでも西瓜の初出荷でも、学校に行く前に早起きして農作業を手伝っていて、小さいころから農業に興味がありましたね。今では、娘もあぐりジェンヌの最年少メンバーです！

私たちの活動を紹介します

日南町 福万来ヒメボタルの保護活動

寄稿：山上まちづくりの会 近藤 仁志さん
代表：坪倉 幸徳さん

- 設立 平成17年
- 会員の数等 地域住民約500名
- 活動内容
 - 小学校のふるさと学習への協力
 - ホタルのシーズン前の環境整備
 - ホタル観賞おもてなし期間（15日間）でのガイド活動
 - SNSによる情報発信等
（日南町観光協会）よりみちにちなん

■連絡先 日南町観光協会 (0859-82-1715)
山上地域振興センター (0859-82-0933)



山林を飛び交うヒメボタル

誇りを持てるふるさとづくりを！

平成17年、「山上まちづくりの会」の発足を契機に、日南町福万来地区のヒメボタルの保護活動を、組織として取り組み始めました。

発足以来、人間が天敵とならないように、明かりや虫よけスプレーの排除など、ホタルの生息環境の保護を第一に考え活動しています。孫子の代までもホタルの飛び交う景観の維持と、ふるさとを離れた方たちに誇りと喜びを感じてもらえるような活動を目指しています。

平成22年より、県内外からの観賞者を受け入れていません。受け入れにあたっては、岡山県新見市哲多町の金ボタルの取組を視察したほか、故梶田博司さん（おかやま環境ネットワーク）を招き、ホタルの生態についての勉強会を開き、ホタルについての学習を深めていきました。

「ホタルバス」の運行に、思わず涙と笑顔が

平成24年には、地元の子ル観光さんから、米子発のホタル観賞のためのバスの運行相談があり、ホタルバスの運行が実現しました。タイミングよく地元紙の一面にホタルのことが紹介されていたこともあり、満員の大型バスが来たときは、今までの活動が一つの評価として現れたと思い、涙がこぼれました。

平成22年には380名だった観賞者数も、平成29年は約4000名にまで増加。たくさんの方がヒメボタルの観賞に訪れます。

活動の魅力

活動の魅力は、何といても波打つヒメボタルの光に「オーッ」と歓声が上がった時、「どうだ！」と自慢したい心を抑えて、暗闇に笑顔がかき消される時です。また、「もう来ることができないかもしれないので、どうしても

見たかった」という県外からの高齢の方や、「日本の観光地の中で一番感動した」と言ってくれるアメリカ人の姉弟など、毎年心に残る出会いがあるのも魅力です。

福万来地区は全長1.5kmに街灯は一つもなく、急峻な山に囲まれた地形に小原川が流れ、川のゲンジボタル、山のヒメボタル、満天の星、さらには優しいカジカガエルの鳴き声が響きます。

これからも豊かなふるさとの自然に感謝しながら、責任を持ったヒメボタルの保護活動を続けていきたいです。



ホタル観賞シーズン前の環境整備

